

「Choju II」の販売開始

株式会社エース・E&L

代表取締役社長 津田博通

「CHOJU」は、2016年11月の販売開始以来、いろいろなお客様のご意見や困っている問題を解決すべく対応してきました。耳が遠い方の進行状況を観察してきた結果、耳の聴こえの進行を抑える方法が見えてきました。この解決方法を「CHOJU II」としてご提案申し上げます。

（耳が遠くなる過程）

- 1、耳が遠くなる現象は、初めにテレビ（TV）の音声の聴こえが悪くなります。いわゆる「アイウエオ」の聴こえが不鮮明になります。
- 2、この為、TVの音量を上げ始め、次第に家族に迷惑をかける様になります。音量を上げて「アイウエオ」の聴こえは改善されません。
- 3、この状態を続けるうちに、次第に人の声が聴こえなくなります。会話は、TVの音声が聴きづらくなっても、脳が会話の内容を予測できるため初期の状態では、問題なく会話ができています。TVの話しは予測できないので、聴き取りが難しくなります。
- 4、しかし、この状態も長続きせず、次第に会話も聴き返すことになります。
- 5、聴き返すことが面倒になると人との接触がなくなり、うちこもりになります。
- 6、この状態を続けていると、認知症の段階に入ります。

（耳が遠くならない対策）

- 1、TVの音量が上がり始めたら、集音器や補聴器で聴こえを補正することが必要です。
- 2、ただし、集音器でも補聴器でもデジタル回路方式は、解決になりません。自然な聴こえを提供できるアナログ回路方式がベストです。
- 3、また、マイクの位置が合理的でない、耳掛け方式や耳穴方式は不適です。これらの商品は、前面からの音声を正確に聴き取れません。
- 4、また、ハウリングが起きやすいため、音量を上げられません。
- 5、「CHOJU」はアナログ回路で構成されているため、TVの音声を明確に聴き分けられます。
- 6、毎日TVの音声を聴くことで、聴こえを改善することが可能です。鼓膜以降の聴神経の部分は高齢者になると劣化が始まります。これを鍛えることで活性化が可能です。
- 7、さらにTVの音声を新規に開発した送信機で飛ばし、手元のCHOJUに組み込まれた受信機で聴くと雑音の無いクリアな音声を聴くことができます。これが「CHOJU II」の原理です。
- 8、家族は通常のスピーカーの音声を聴き、耳の遠い方は無線でTVの音声を聴きます。しかし、マイクがありますので家族と普通に会話しながら、TVの鑑賞ができます。
- 9、「CHOJU II」を使用することで、家族に平和が戻ります。

「CHOJU II」の購入費用は、「CHOJU」購入済みの方には、送信機と本体の改造費を合わせ15,000円（消費税込み16,200円）でご提供いたします。新規購入は、本体60,000円 送信機5,000円合計65,000円（消費税込み70,200円）です。 以上